

駒門駐屯地でヘリコプター体験搭乗



自衛隊神奈川地方協力本部小田原地域事務所（所長 奥山貴志2陸尉）は、2月21日（土）に陸上自衛隊駒門駐屯地において実施されたヘリコプター体験搭乗に参加した。

当日は小田原地区から25名が参加。受付後、隊員から飛行に伴う注意事項や安全管理について丁寧な説明が行われ、参加者は真剣な表情で耳を傾けていた。普段、間近で見る機会が少ないヘリコプターを前に、機体の構造や任務内容について質問する姿も見られ、自衛隊の活動に対する関心の高さがうかがえた。

搭乗時は晴天に恵まれ、上空からは雄大な景色が広がり、特に富士山を望む眺望に歓声が上がった。参加者からは、「富士山もきれいに見えました」「音の迫力がすごい」「想像以上に安定していて安心した」などの感想が寄せられ、非日常の体験を通じて自衛隊への理解を深める1日となった。

さらに、自衛隊では隊員の処遇改善が進められており、駒門駐屯地内には隊員の意見を反映したモデルルームが開設されている。見学した参加者からは「思ったより快適」「生活環境が整っている」といった声が聞かれ、自衛隊に対する従来のイメージとの違いに驚く様子が見られた。

小田原地域事務所は、今後もこのような体験型イベントを通じて、自衛隊の任務や魅力を広く発信し、地域住民との信頼関係の醸成に努めていくとしている。

地域を守る仕事を知る 3機関合同説明会

自衛隊神奈川地方協力本部平塚地域事務所（所長 兒玉憲幸1陸尉）は、2月21日（土）、伊勢原警察署において「伊勢原市警察・消防・自衛隊合同説明会」を実施した。

本説明会は、警察・消防・自衛隊の3機関が合同で開催したもので、地域の安全を担う各機関の役割や業務内容について理解を深めてもらうことを目的として実施し、当日は7名が参加した。

自衛隊からは、国防や災害派遣といった任務の概要に加え、職種のもろ様性や教育訓練の内容、福利厚生や各種手当などの処遇面について説明した。また、災害派遣活動や日々の任務を通じて国民の安全・安心を支えることへのやりがいや使命感についても紹介し、隊員として働くことの意義を具体例を交えて伝えた。

説明後の個別相談では、自衛隊の勤務形態やキャリアパス、生活環境などに関する質問が多く寄せられ、参加者は熱心に耳を傾けていた。参加者からは「自衛隊のイメージが変わった」「幅広い分野で活躍していることが分かった」との感想があり、自衛隊への理解を深める機会となった。

平塚地域事務所は、「今後も関係機関と連携しながら、自衛隊の役割や魅力を積極的に発信し、地域の安全を支える人材確保につなげていく」としている。

